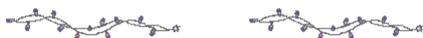


【団長挨拶】

港北区民交響楽団が当地で産声を上げてはや四半世紀の年月が流れました。定期演奏会は既に50回近くの公演を開催して参りましたが、団員メンバーによる室内楽演奏会は意外にも殆ど無かったというのが現状です。今般、旧大倉山水曜コンサートの岡幹絵様始め、相鉄エージェンシーの方々のご協力で、今後年に何回かの公演を持つことが可能になりました。地元の皆様との音楽を通してのふれあいを少しでも深められれば幸いです。

港北区民響楽団 団長 富山辰夫



【プログラム内容】

■モーツァルト/バイオリンとヴィオラとピアノのためのトリオ K498

＜＜メンバー紹介＞＞

大森 徹 (Pf)：海外駐在に引き続き沖縄勤務、最近10年振りに港北区民響に復帰。本職は打楽器です。／ 滝口 修 (Vn)：結婚以来横浜在住。現役サラリーマンのころから区民響に参加しています。／ 林 賀子 (Vla)：現役キャリアウーマン。広島出身、区民響への参加はわりと最近です。

＜＜曲目紹介＞＞

モーツァルトがピアノのお弟子さん・フランツィスカ・ジャカン嬢（父親はフォン・ジャカン男爵）のために作曲した曲です。

さて、この曲の演奏、ジャカン家の演奏会。ピアノは16歳のフランツィスカ、ヴィオラは30歳のモーツァルト、クラリネットは、信頼するシュタードラー33歳、でしょう。聴衆はフランツィスカのご両親、兄たち、と父の友人たちでしょうか。4年前に結婚したコンスタンツェもいたかもしれません。

ただ、初版はバイオリンの代わりにクラリネットでもよい、とされていたそうです。

第1楽章 アンダンテ、ソナタ形式あるいは三部形式：出だしのコード、お嬢さんのピアノとモーツァルトのヴィオラが開幕を告げます。

第2楽章 メヌエット

第3楽章 ロンド：途中にドラマチックな、エピソード、というより劇中劇という趣の部分があります。1,2楽章は美しく穏やかな曲想なのですが、3楽章のこの部分、ヴィオラが語るのはモーツァルトの情念でしょうか。

■モーツァルト / 弦楽四重奏曲 第14番 K387

＜＜メンバー紹介＞＞

港北区民響の弦楽器セクションの中樞を担う(?)4人で構成された弦楽四重奏団。既に過去6年で計4回の定期演奏会を開催しており、プログラムに必ず一曲はモーツァルトの曲を載せてきましたが、今でも「取っ付き易い割には難しい」という印象を拭い去ることができません。さて今回はどんなモーツァルトになることでしょうか？

田中 真紀子・渡部 智子 (Vn)、堀井 正明 (Vla)、富山 辰夫 (Vc)

＜＜曲目紹介＞＞

ハイドンがロシアの大公に捧げた6曲からなる「ロシア弦楽四重奏曲」に刺激された29歳のモーツァルトは、この曲を皮切りに、10年間の沈黙を破って弦楽四重奏曲の作曲に着手し、2年間で6曲の弦楽四重奏曲を書き上げて「ハイドン弦楽四重奏曲」としてハイドンに献呈しました。完成度の高いこれらの傑作群はハイドンに絶賛されました。この曲は天真爛漫なモーツァルトの旋律に対位法の技法も駆使され充実した内容となっています。全楽章通して半音階的なモチーフが散りばめられているのも印象的です。

第1楽章 アレグロ・ヴィヴァーチェ・アッサイ ソナタ形式：軽快な旋律がすべての声部に生き生きと現われます。

第2楽章 メヌエット：半音階的でpとfが交互に現れる旋律が特徴。トリオは一変して驕りを見せず。

第3楽章 アンダンテカンタービレ：美しい緩徐楽章。第1バイオリンが優雅に歌います。

第4楽章 モルトアレグロ：ジュピター交響曲フィナーレのようなシンフォニックな展開が見事。



■ニールセン / 木管五重奏曲

＜＜「とんがり木管五重奏団」ご紹介＞＞

「ロッジとんがり」での合宿（半分遊び）で生まれたことから「とんがり木管五重奏団」を名乗り、機をみてはいろいろな場でいろいろな曲（…タンゴから唱歌まで）を演奏しています。”CDが出せるぐらいに”ライブ録音がたまりましたが、同じぐらい「リベンジ候補曲」が増えました。…この曲もまた??…

大槻郷子 (Fl)、水橋恵津子 (Ob)、大貫京子 (Cl)、松本由佳子 (Fg)、千田理路 (Hr)

＜＜曲目紹介＞＞

カール・ニールセンはデンマークの作曲家。日本ではあまり知られていませんが、6つの

交響曲と数多くの歌曲・合唱曲などを残しています。この曲は親交のあった管楽五重奏団のために書かれたもので、組曲風の軽妙で愉快な作品です。(が、演奏者は必死です。)

第1楽章 アレグロ・ベン・モデラート：ファゴットのソロから始まり、3つの主題が複雑に絡み合います。

第2楽章 メヌエット：クラリネット、フルートが田園的なメヌエットを奏でます。

第3楽章 前奏曲と主題と変奏：コーラングレの重々しいソロから始まる前奏曲、賛美歌を思わせる主題に11の変奏が続きます。叫ぶクラリネット、高らかに歌うホルン、「クールファイブだ」、「これナウシカっぽい」、「…ドラえもん!？」等々、いろいろな意味で木管アンサンブルのバリエーションを楽しんで頂けるかと思います。



■トロンボーン四重奏

≪「大倉山トロンボーンアンサンブル」ご紹介≫

港北区民響トロンボーン科は、ほぼ創立時のメンバーが生き残っているため「区民響の生きた化石」と呼ばれています。オジサン3人では舞台上に華がないので、学校の後輩を(無理矢理)招いて、Trb4重奏団を構成しました。

江口和宣・市川英史・小池晴夫・若林 渚(賛助出演)(Trb)

≪曲目紹介≫

小田桐寛之編：ルモワン社の雑記帳 より

バルロー：少女は、神様にお話する / **ロジェ**：おもちゃを片付けなさい

アンリ：子供におやすみと言う妖精 / **クレルグ**：夕暮れ

ベルトミュ：気まぐれなロバ

この曲集は、フランスのルモワン Lemoine 社の”雑記帳 Cahier (ピアノの練習曲集だそうです)”の中の数曲を Trb 四重奏に編曲したものです。それぞれの曲はともにも短く、タイトルの意味を考えているうちに終わってしまうかもしれません。

高嶋圭子：トロンボーン四重奏のための”古都三景”より”鎌倉 ～紫陽花咲く寺にて～”

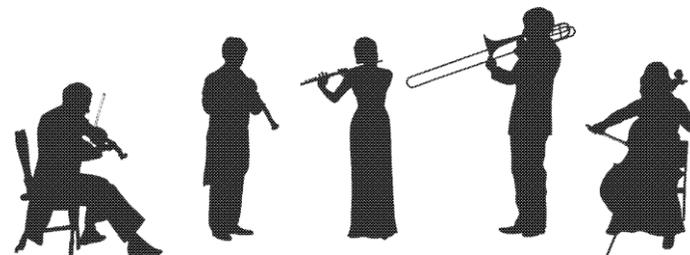
日本の古都のをテーマに作曲された Trb 四重奏組曲の第1曲で、鎌倉の”あじさい寺” こと明月院の、雨にぬれて咲き乱れる紫陽花の情景と印象が描かれています。

ジェローム・ノレ：カトル・ア・カトル より

フォックス・トロット Fox-trot / **ブルース** Blues / **ヴィフ** Vif (急速に)

ノレはフランスの Trb 奏者兼作曲家で、ジャズやポップス調の楽しい作風が特色です。題名は、「大急ぎで」という慣用語と、4本の楽器のための4楽章、の洒落になっているようですが、今回はそのうち3曲を演奏します

港北区民交響楽団 室内楽コンサート



～ プログラム ～

モーツァルト ピアノ三重奏曲 K498

モーツァルト 弦楽四重奏曲第14番 K387

ニールセン 木管五重奏曲 Op.43

“ルモワン社の雑記帳”(編曲 小田桐寛之)より 他

2011年7月10日(日) 14:00 開演

於 大倉山記念館 ホール

主催：港北区民交響楽団

共催：横浜市大倉山記念館

港北区民交響楽団 今後の公演のご案内

第2回室内楽コンサート 2011年12月18日(日) 大倉山記念館

第49回定期演奏会 2012年1月22日(日) みなとみらいホール

田部井剛指揮 ラフマニノフ交響曲第2番 他